

土曜

SATURDAY

# ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医の

カルテ



⑩



たかはし動物病院長  
(富山市豊若町)  
高橋 明寿

「核硬化症」をご存じでしょうか。あまり聞き慣れないかもしれませんが、目の病名で、黒目が白く濁って見えます。

目が白くなると言えばまず白内障を思い浮かべる人が多いでしょう。白内障は、ぶどう膜炎や緑内障、網膜剥離などに進行してしまう可能性がある怖い病気です。白内障の場合、定期的な眼の検査、進行予防の点眼、手術などを行います。

核硬化症は、白内障と見た目は似ているものの、治療の必要はありません。原因が加齢に伴うものだからです。

病気のお話の前に少しだけ、目

## 白内障と似た「核硬化症」



目の検査を受ける犬

の構造について説明します。眼球の奥に、光を受け取り、視覚情報を視神経に伝える働きを行う網膜があります。その網膜に対して正しい焦点を合わせるレンズのことを水晶体と言います。皆さんがワンちゃんの目を見たとき、黒く見えているところがこの水晶体の一部に当たります。

この水晶体に変化が起きるのが核硬化症です。水晶体の中では、縁にある水晶体上皮細胞から水晶体線維が絶えず産生されています。水晶体線維が水晶体の中心で、ある核に向かって圧縮され、密度が増していきます。

年を取ると中心部の層は硬くなり、透明度が低下していきます。

## 黒目加齢で白く濁る

それによって、黒目が白く濁ってきたように見えるのです。視覚は維持されているので、日常生活は特に変わりはありません。

しかし、他の眼の病気を併発しており、眼圧が高い場合は散瞳させることができません。そのため点眼の前にさらに眼圧測定を行うこともあります。散瞳後、水晶体核が見えるかどうかを確認するだけでなく、白内障がないかどうかも診ていきます。核硬化症のみならず、治療は必要ありません。

ペットの目が白くなってきたと思ったら、かかりつけ病院で相談していただきたいと思います。

ではどのような検査で、核硬化症が分かるのでしょうか。

基本的に加齢に伴うものですが、老齢性の白内障を併発しているケースがあります。白内障の初期では、見逃してしまう場合もあるので、事前に黒目を大きくする散瞳剤を点眼し、検査していただきます。